

ゾーニングの基礎

2020年9月25日
公益財団法人慈愛会 今村総合病院
感染管理認定看護師
外来看護師長
吉森 みゆき

本日の内容

- ・ゾーニングとは
- ・ゾーニングの目的
- ・ゾーニングの基本的な考え方
- ・ゾーニング時の注意事項
- ・ゾーニングの実際
- ・設定後のチェック項目

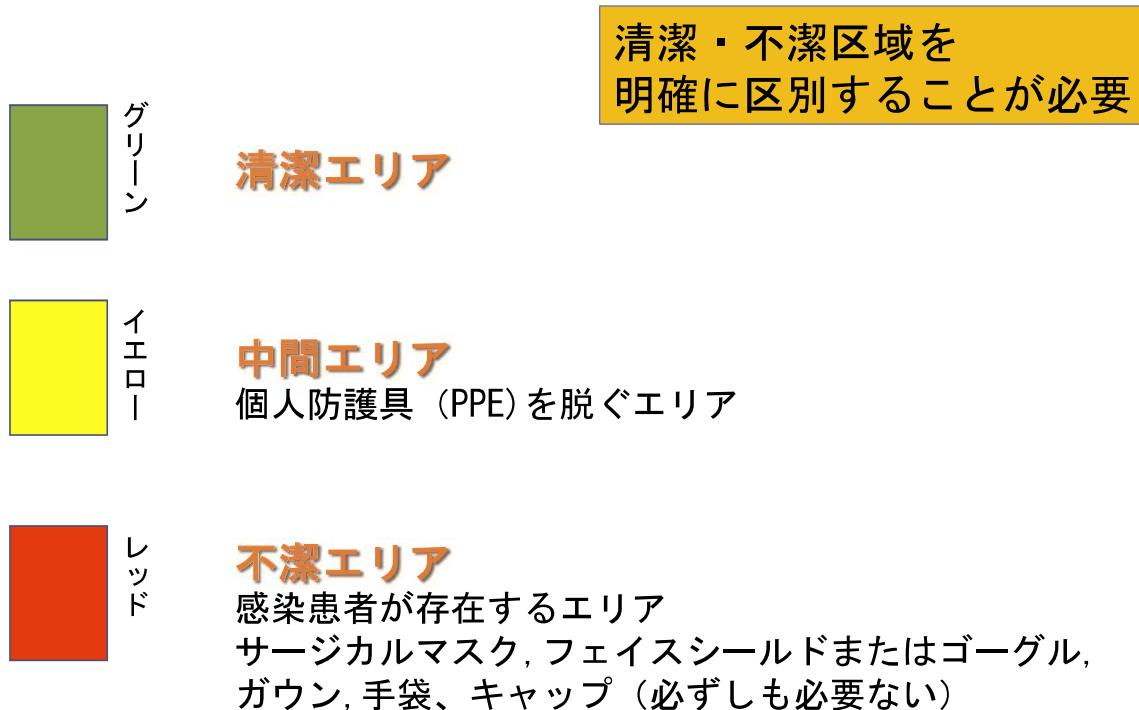
ゾーニングとは

感染者のエリアにおいて、病原体によって汚染されている区域（汚染区域）と汚染されていない区域（清潔区域）を区分けすること。

ゾーニングの目的

1. 清潔区域と不潔区域を明確にし病原体を封じ込める
2. 安全な医療および介護の提供
3. 感染の拡大防止
4. ゾーン内のスタッフの安全確保

ゾーニングの基本的な考え方



5

基本ゾーニングのパターン

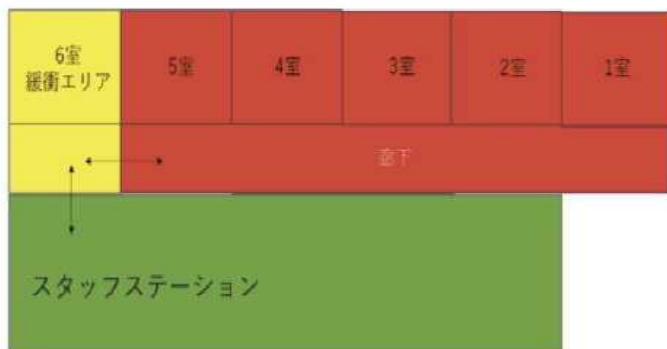


鹿児島県医師会COVID-19相談窓口より一部抜粋

- スタッフは廊下（清潔区域）の着用場所で個人防護具を着用
- 汚染区域に入り、病室内で個人防護具を外して廊下に出る
- 原則として感染者は常に病室で過ごす
- 感染者の移動や感染性廃棄物を排出する際のルートを確保する
- 専用動線の確保が望ましいが、使用時間（時間的隔離）を決め、汚染拡大を防ぐ措置をとる

6

基本パターンが難しい場合



鹿児島県医師会COVID-19相談窓口より抜粋

- 廊下に出ないとトイレを使用できない
- 感染者が多く基本パターンでは対応しきれない
- 少ないスタッフで対応せざるをえない
- 個人防護具が不足している
- オープンスペースのため汚染区域を広くとる必要がある

7

ゾーニングの基本的考え方

- 汚染区域は可能な範囲で狭く設定する
- スタッフステーションは原則として清潔区域とする
- スタッフは汚染区域にに入る際に必要な個人防護具を着用し、汚染区域から出る際に個人防護具を脱衣する
- 個人防護具の着用と脱衣は別の場所で行う
- 清潔区域では、汚染の起こりやすい部位を中心に頻回に清掃消毒を行うなど、意識して清潔な状態を保つ
- いずれの区域においても十分な換気を行う
清潔区域から汚染区域に空気が流れるように工夫する

8

ゾーニング時の注意事項

- ・各ゾーンから出入り際には、必ず手指消毒を行う
- ・ゾーン分けの考え方が明確になっているか
- ・動線の考え方が明確になっているか
(グリーン⇒イエロー⇒レッド)
- ・感染防護具の脱衣のエリアが明確になっているか
- ・汚物処理の動線が適切か
(グリーンをまたがないなど)

鹿児島県医師会COVID-19相談窓口より抜粋

9

感染者数が多発した場合 ゾーニングの特徴

- ・感染者が発生してからゾーニングを設定するため、全体像がみえない状況で判断せざるをえない
- ・すでに汚染されている可能性があるため、設定時に清掃消毒を行って清潔区域を確保する必要がある
- ・ゾーニングをあらかじめ計画する場合と異なり、事前に予測していなかった問題の対応が必要になる

10

ゾーニング ポイント①

- ・区域の境界が明確になるように設定する
- ・衝立て境を示したり、テープを用いて境界を示すとわかりやすい



11

ゾーニング ポイント②

- ・各ゾーンですべきことを明確にし、掲示物などをを利用してわかりやすく示す



12

ゾーニング ポイント③

- 清潔区域に設定した場所がすでに汚染されている可能性があるため、ゾーニングを開始する前に清掃消毒を徹底する



物品・人の配置

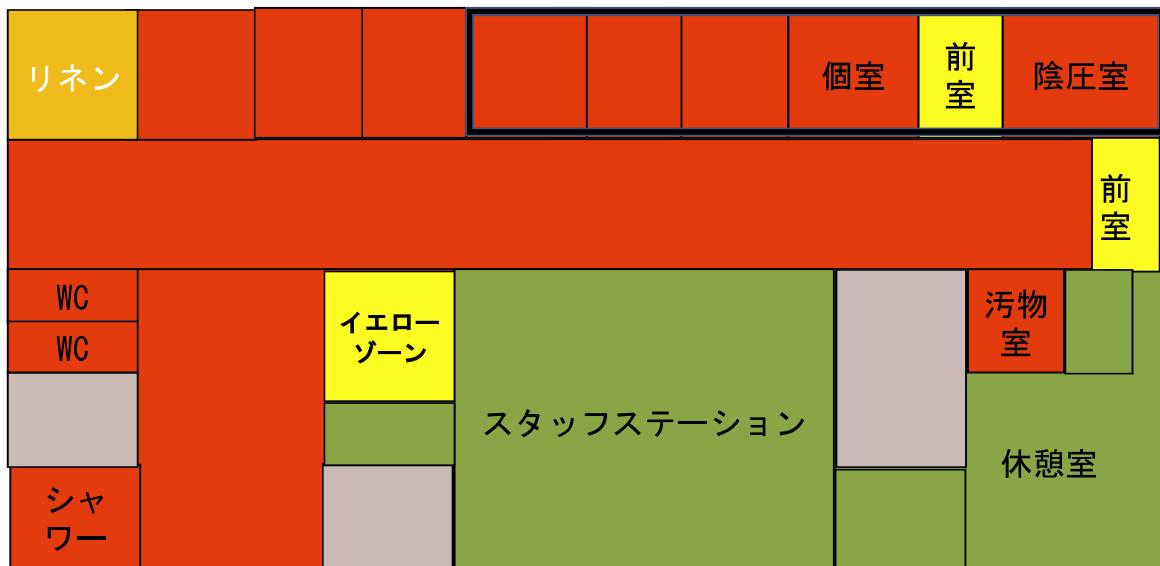
必要物品

- 体温計、血圧計、聴診器
- 吸引器、酸素ボンベ、パルスオキシメータ、カニューラ類などの医療品
- 手指消毒剤
- 個人防護具
- ペダル付の感染性廃棄物容器
- ポスター
- 環境用クロス
- 次亜塩素酸Na or アルコール

人の配置

- 担当者を固定する
- 担当者の健康観察強化
- 他のユニットの担当は行わない
- 応援体制を図る

ゾーニング例 COVID-19病棟



15

ゾーニング例 COVID-19病棟



イエローゾーン
緩衝エリア
PPE脱ぐ

グリーンゾーン
スタッフステーション側
PPE着る

16

障害者・高齢者施設等 感染者が発生した場合

- 基本的には、指定感染症であるため入院となる
- 濃厚接触者は、検査対象となる
- それまでの間、ユニット内での対応が想定

濃厚接触者の定義

「無症状病原体保有者の感染可能期間」

陽性確定に係る検体採取日の2日前から入院、自宅や施設等待機開始までの間、

- ・患者（確定例）と同居あるいは長時間の接触（車内、航空機内等を含む）があった者
- ・適切な感染防護無しに患者（確定例）を診察、看護若しくは介護していた者
- ・患者（確定例）の気道分泌液もしくは体液等の汚染物質に直接触れた可能性が高い者
- ・その他：手で触れることの出来る距離（目安として1メートル）で、
必要な感染予防策なしで、「患者（確定例）」と15分以上の接触があった者

疑い例や濃厚接触者の扱い

- ・入院まで、居室を感染者と非感染者と明確に分ける
- ・担当者を分けたり、ケアの順番を考慮する
- ・疑い例の入居者同士が接触しないよう配慮する
- ・スタッフが複数の疑い例を担当する際には、可能な限り個人防護具を替え、手指衛生を厳守する
- ・他の利用者との間で伝播が生じる可能性があるため、互いにできるだけ接触しないよう配慮する

障害者・高齢者施設等 感染者の1例目は・・

- ・入居者なのか、職員なのか、感染者数は？
- ・面会はいつ？担当職員は？同室者？
- ・ADL、ケア度、認知症、アクティビティ等

介護は3密である



介護の現場では、
濃厚接触者数は多い可能性がある

濃厚接触者となりやすい人

入居者からの発生の場合

- ・同室者
- ・食事の際、同じテーブルの方
- ・レクリエーションを共にした方
- ・仲の良い方など

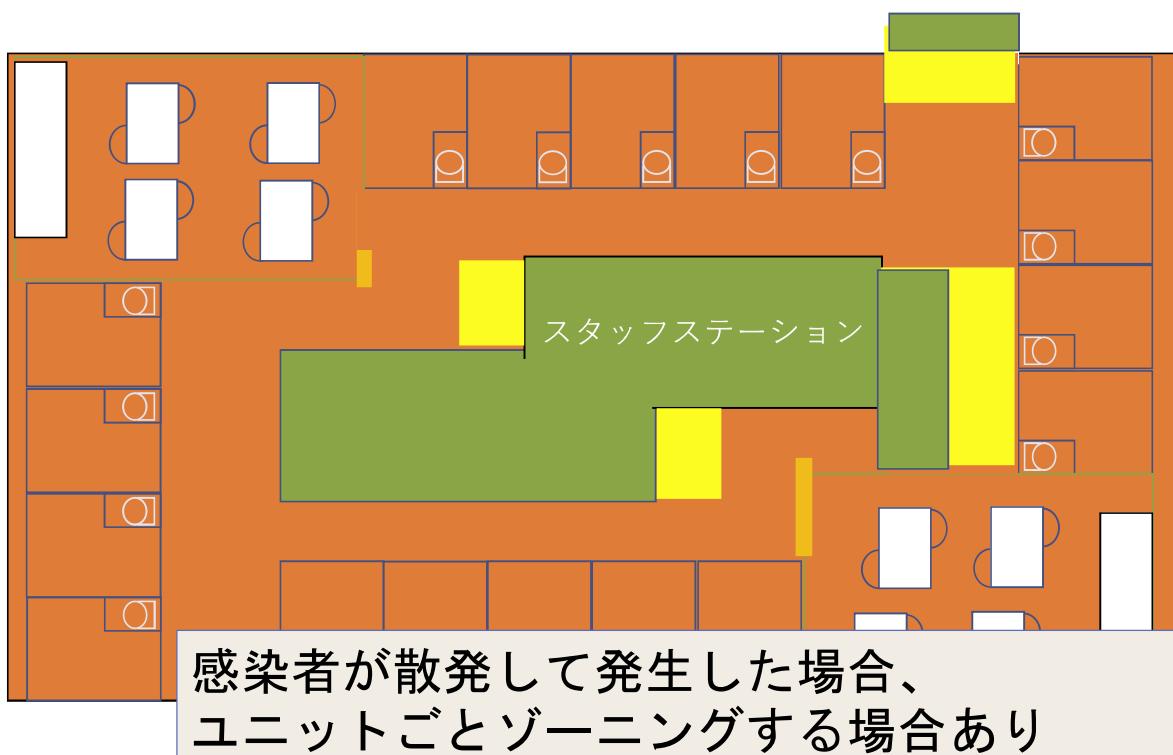
スタッフからの発生の場合

- ・担当の入居者
- ・入浴や排泄、食事介助など担当した入居者
- ・休憩（食事）、夜勤を共にしたスタッフなど

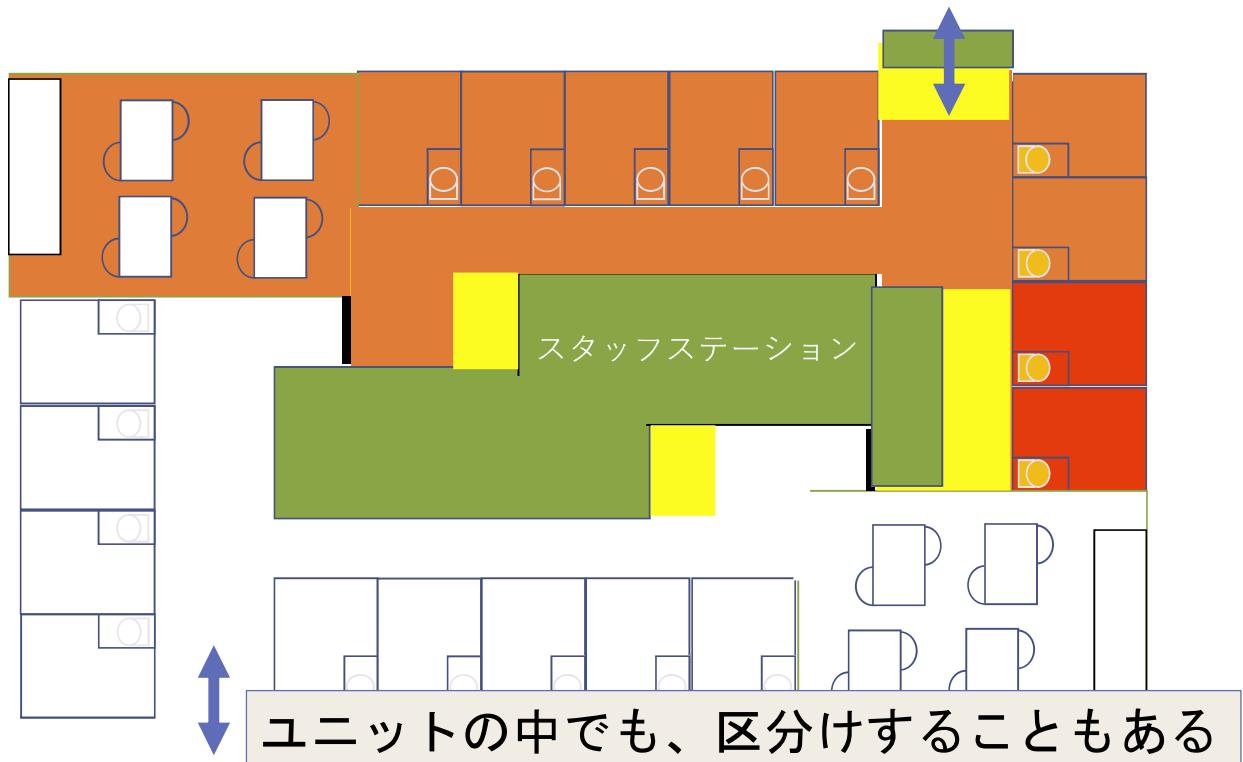
障害者・高齢者施設等 ゾーニング

	グリーン 清潔エリア
	イエロー 中間エリア 個人防護具 (PPE) を脱ぐエリア
	オレンジ 準不潔エリア 濃厚接触者等に対応するため、 <u>段階的対策として追加</u> サージカルマスク、フェイスシールドまたはゴーグル、 ガウン（エプロン可）、手袋着用
	レッド 不潔エリア 感染患者が存在するエリア サージカルマスク、フェイスシールドまたはゴーグル、 ガウン、手袋、キャップ（必ずしも必要ない）

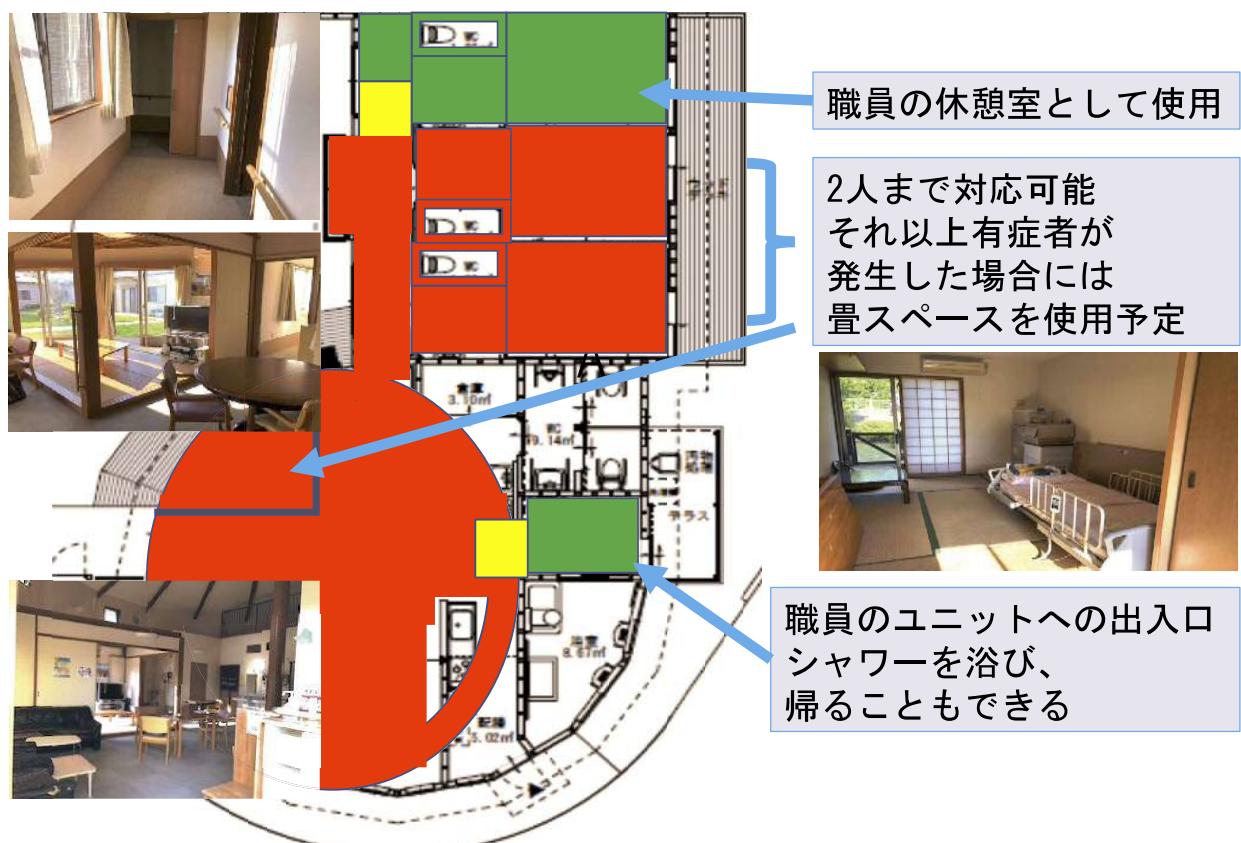
ゾーニングイメージ 感染者は入院



ゾーニングイメージ ユニット内で分離できる場合



グループホームの一例



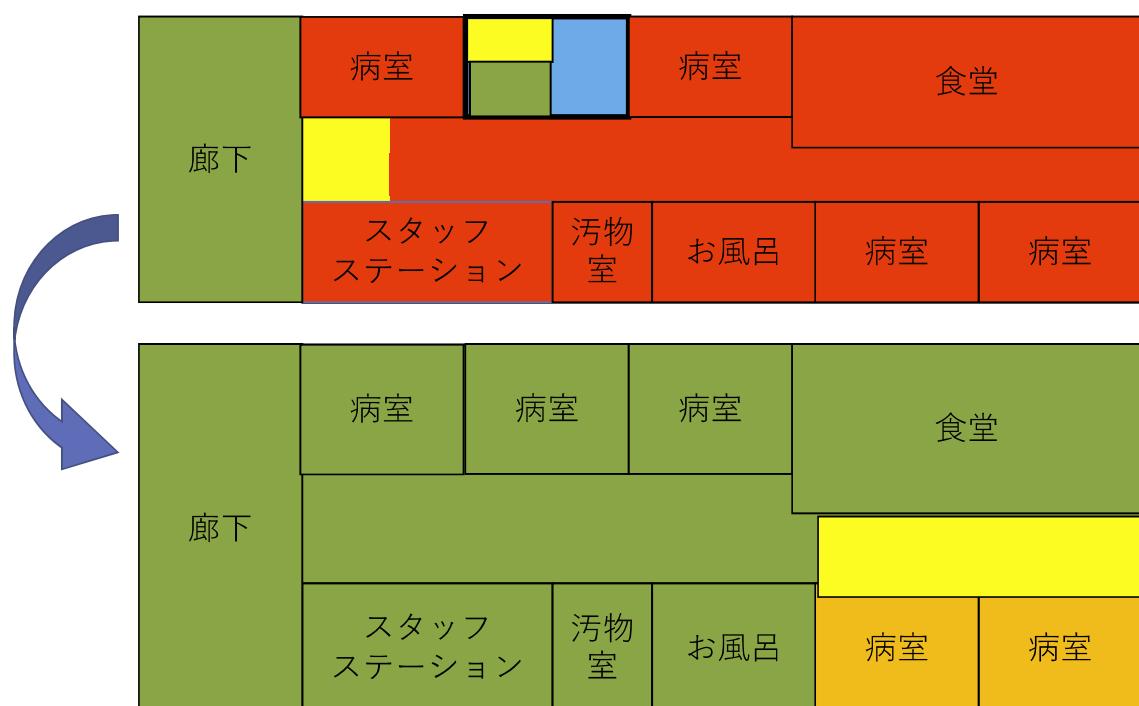
クラスター発生時のゾーニング

- 複数人の感染者数である場合、居室の状況によりゾーニングを広めに設定する場合がある
- 濃厚接触者から発症した場合、ゾーニングを段階的に変更を行う場合がある
- 濃厚接触者への感染対策を行う必要がある
- 疥癬等の場合には、ゾーニングの中で、さらにゾーニングする



予定されていたゾーニングに変更

クラスター発生後のゾーニング 徐々に解除



設定後のチェック項目

- 清潔区域と汚染区域を明確に区別して運用されているか
- 手指衛生や個人防護具の着脱など、基本的な感染対策の手技が確実に行われているか
- 個人防護具の着用場所と脱衣場所が交差あるいは隣接することで交差汚染をきたす危険がないか
- 個人防護具の脱衣場所は脱衣するスタッフの人数に応じて十分な広さを確保できているか

27

設定後のチェック項目

- 個人防護具を再利用する場合、交差汚染を防ぎながら保管できているか
- 清潔状態を維持するため、高頻度接触面を中心に頻回の消毒を行うなどされているか
- 医療物品など感染者と非感染者が共用する医療器械を汚染区域で使用した場合に、消毒が確実に行われているか
- ゾーニングにより入居者のケアに支障が生じていなか

28

まとめ

- ・ゾーニングの目的を理解し、動線を考慮しながら明確に区分けを行う
- ・介護は3密条件にあるため、ゾーニング時には濃厚接触者への対策も行う
- ・ゾーニング設定後は、チェック項目に沿って確認を行う

引用文献

- ・ゾーニングの基本的考え方（第1版）2020/7/6
鹿児島県医師会ホームページ
鹿児島県医師会COVID-19相談窓口
<http://www.kagoshima.med.or.jp/top/corona/20200707-2.pdf>
- ・急性期病院における 新型コロナウイルス感染症アウトブレイクでのゾーニングの考え方 2020/7/9 ver1.0
国立国際医療研究センター 国際感染症センター
http://dcc.ncgm.go.jp/information/pdf/covid19_zoning_clue.pdf#search=%27ゾーニング%27